

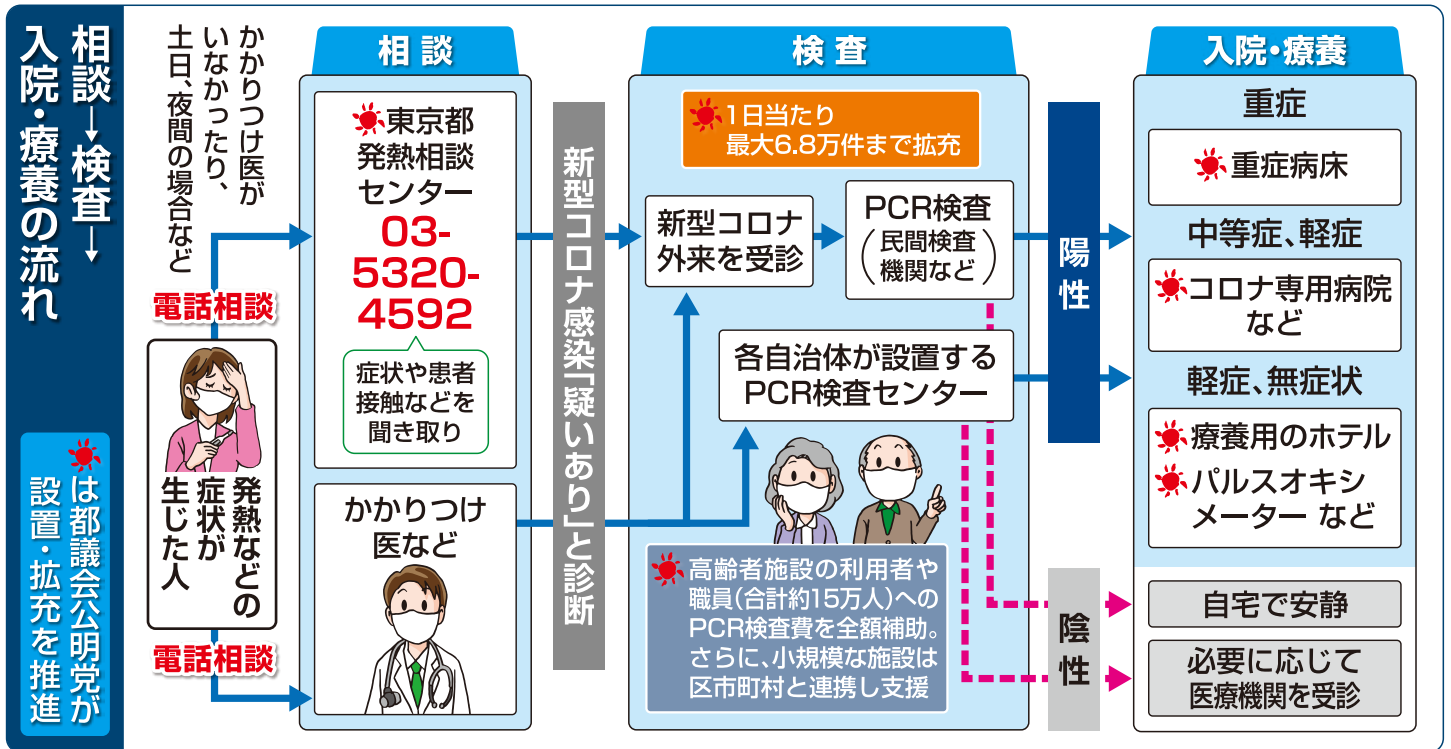
## 32回に及ぶ緊急要望

# 新型コロナ対策をリード

都議会公明党は議会質問に加え、生活者目線からの32回、275項目に及ぶ緊急要望(2020年11月末現在)で、都民の命を守り、暮らしを支える新型コロナ対策を次々と実現してきました。



▲小池都知事に新型コロナ対策の強化を要望する都議会公明党 (2020年8月31日 都庁)



## 医療体制を強化

- 発熱などの症状が出た時の電話相談窓口「東京都発熱相談センター」を開設
- 感染の有無を調べるPCR検査などの実施件数は、1日当たり最大6万8000件まで拡充
- 定期的なPCR検査費を都が全額補助。対象となるのは、高齢者・障がい者の施設の利用者や職員(合計約15万人)
- 2020年度に限り、65歳以上の高齢者らのインフルエンザワクチンの接種費用が無料

## 実現した 主な実績

## 事業と生活を守る

- 中小企業の資金繰り支援として、1億円の融資が3年間無利子、信用保証料の負担ゼロ
- 事業者の家賃負担を減らすため、国の給付金に上乗せする形で、1カ月当たりの家賃75万円までの場合、家賃の4分の3を補助
- ネットカフェで寝泊まりする人や、「コロナ解雇」で失業し住居を失った人には、一時的な宿泊場所を提供
- 受験生に塾費用や受験料を無利子で貸し付け、高校・大学に合格すれば返済不要となる「チャレンジ支援貸付」の収入要件を緩和

**雇用調整助成金 休業支援金**  
2021年2月末まで延長

政府は、①雇用維持に協力した企業に支給される「雇用調整助成金」の特例措置  
②休業手当が支払われていない中小企業労働者に対する休業支援金——について、  
2020年12月末となっていた期限を21年2月末まで延長することを決定



# 安全・安心の中野をめざして

公明党中野総支部は、都議会公明党の政務調査会長(政策づくりの責任者)でもある総支部長の高倉良生を先頭に、新型コロナ対策とともに、安全・安心の中野をめざし全力で働いています。



公明党中野総支部長・高倉良生

## 「防災・減災」を着実に

- 「中野四季の森公園」をはじめ、大型の防災公園を整備
- 避難所となる区内の小・中学校の体育館にエアコンを設置  
**今後は…** 感染症対策を踏まえた避難体制の整備に力を注ぐ
- 激甚化する集中豪雨に備え、区内を流れる妙正寺川・神田川の護岸整備や調節池を設置。2019年の台風19号では区内の浸水被害を阻止  
**今後は…** 環状七号線地下調節池を広域化し、貯水量を倍以上に増やすことをめざす



## 希望ある 少子高齢社会へ

- 母子を守る「産後ケア」など、産前・産後の切れ目ない子育て支援を推進
- 私立高校や通信制高校の授業料を実質無償化  
**今後は…** 妊娠・出産から大学進学に至るまで、サポートのさらなる拡充に取り組む
- 高齢者のインフルエンザ予防接種の負担を軽減(65歳以上と基礎疾患のある60~64歳を無償化)  
**今後は…** 誤嚥(食べ物などが誤って気管に入ること)の防止など「食べる力」を維持・改善する「口腔ケア」の普及を進め、高齢者や障がい者の健康を守る



## 住民相談2万5000件 一人一人の「小さな声」をカタチに

- 聴覚・視覚障がい者のための字幕・音声ガイドが付いた「バリアフリー映画」の普及へ、国会議員と連携して著作権法を改正し、規制が見直された
- 医療的ケア児が利用できる通学バスの配置や、都庁や都営地下鉄などのトイレの入口に視覚障がい者のための音声案内の設置を推進
- 都議会公明党「動物との共生を進めるプロジェクトチーム」座長として、犬や猫の殺処分ゼロを推進



▲国会傍聴席で改正著作権法成立を見守る関係者の皆さん



▲トイレに設置された視覚障がい者のための音声案内

## 「議会改革・ムダ削減」で生まれた財源がコロナ対策などに活用されています

27億円(4年間)

2017年度からの議員報酬2割削減、議会などに出席するたびに定額支給される費用弁償の廃止、政務活動費のカット、公用車の削減など

5389億円(2007年度~)

予算づくりの一環として、事業の総点検を実施



## ● 高倉良生の略歴 ●

1957年(昭和32年)2月8日、茨城県生まれ  
 ◆家族は妻と1女と猫 ◆茨城県立水戸第一高校卒/創価大学経済学部卒 ◆公明新聞記者を経て、1999年(平成11年)に中野区議会議員に初当選(2期6年) ◆2005年(平成17年)に東京都議会議員に初当選(現在4期目)  
 ◆都議会公明党政務調査会長 ◆防災士  
 ◆東京都動物愛護管理審議会委員  
 ◆趣味は登山、写真撮影(日本山岳会会員、日本山岳写真協会会員)